



エントランス前の書店には、フランスの書物や土産品がいっぱい。「この空間はもうパリですね」

高野 道に、美しいものだけじゃなく、背徳とか、裏切りとか……人間の悪徳部分も、子ども時代から映画で見せていいと思うんです。私たち世代は大人に交じって、男と女や、大人の人生のあれこれ学んだというか。今は子どもには、お子さま用のものだけを避けてませんか。

そして、子ども向けと思っていた作品にもいいものがあります。夏休み、食わず嫌いでご縁がないと決めつけていた『マダガスカル3』を見たのですが、カンヌでも上映されただけあって、3D効果もおしゃれで驚きました。4歳の子どもに見せたら、大人にとっては、お笑い映画で片づけてしまう内容に、私

假屋崎

『メイム』以来、映画は生活になくってはならない特別なものでした。

が泣けた同じところで、涙出ちゃったと言う。無垢な子どもたちの感性こそ豊かだとわかりました。子どもは見どころありますね。

假屋崎 英才教育というのがありますが、感受性の鋭い子どもの時期に何に出合うかがとても重要ですね。でも人生にとって手遅れなんてないと思うんです。触手を広げると、思いがけずびっくりするような感動に出合うことがいっぱいあります。映画からは、新しい世界を発見することばかりです。

高野 映画の効用の一つに、まず映画を見て、原作を読む。最近注目された問題作、『少年は残酷な弓を射る』は、分厚い上下2巻の原作ですが、映画を見た後読むとスイスイいけちゃう（笑）。「映画は小説を読むきっかけになるものだ」と、ウォルト・ディズニーも言葉に残していますが。

假屋崎 他にもあります。たまたま出合った映画が気に入ると、その監督の作品を処女作から見っていくんです。これがすごく楽しい。しかも何年かたって見